

な内容、
はなく、
の県民を
つつなが
現在は事
いている

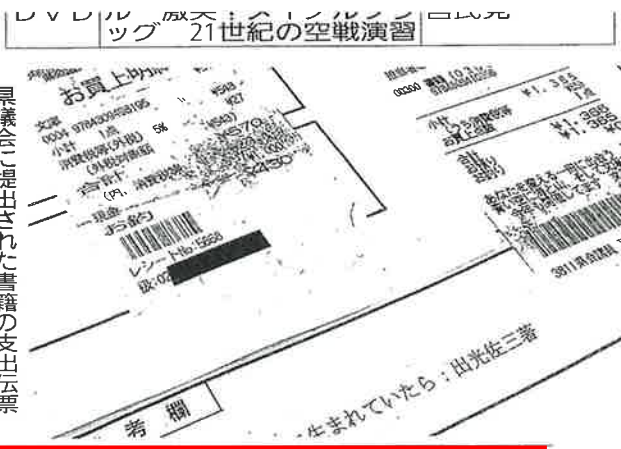
「東の海」
向樹さん
一や山崎

県議会は、会派や県議個人が購入した書籍代の証拠資料として、「支出伝票」に書籍名を明記し、レシートや領収書を添付するよう求めている。レシートにはインターネットで検索すると、書籍名を特定できる「ISBN」番号が印字されたものが多い。

判明で印字レシート

「ゴルフは科学でうまくなる理論のツボを知れば、スコアは必ず縮まるー」は、民主党県議が「集団的自衛権」の本を購入したとして提出したレシートに印字されていたISBN番号から判明した書籍だ。同じ県議は、出光佐三さんの著書を購入したとして、「犬から聞いた素敵な話 涙あふれる14の物語」のレシートも添付していた。県

「2頁の裏面にしきり、たどるう」と釈明した。県議会局は「議員が記した書籍名は正しいことが前提で、ISBN番号や値段と一致しているかは確認していない」としている。「書籍代」としか書かれていない領収書や、タイトルの一部や著者名しか記されていない支出伝票も多く、趣味や娯楽の書籍代を紛れ込ませても見抜くことが難しい。



陸奥の主砲「横須賀へ」

船の科学館に展示中 市民に協力訴え
「船の科学館」（東京都品川区）に展示されている旧日本海軍の戦艦「陸奥」の主砲（長さ18・8㍎、重さ102㍏）を、陸奥が建造された横須賀市に譲渡するよう求めて活動している「陸奥主砲里帰り」を支援する会（陸奥の会）が8日、横須賀商工会議所で記者会見を開き、市民の協力を求めた。今後、募金活動や支援グッズの販売で、輸送費などを確保する方針。

発起人を代表して小泉進次郎衆院議員が「近代化、海洋開発、歴史の三つを兼ね備えた横須賀のアイデンティティーを、みんなで盛り上げたい」と活動の趣旨を説明。2万人の署名が集まったことも明らかにした。斎藤隆・元統合幕僚長は会発足の経緯や主砲の歴史の価値を解説した。

このダイオウイカは3月12日、横須賀市走水沖の東京湾で、ワカメ漁の男性が海面に浮いているのを素手で捕獲、同マリパークに運ばれた直後に死んだ。太平洋側で見つかるのは珍しいという。

9月13日から一般公開される予定。問い合わせは同マリパーク（046・880・0152）。

機関に救急搬送する間、医師の指示を受け、点滴や気道確保などの救急救命措置を行える。日本救急医療財団によると、6月末現在、全国で4万8570人いるという。

救急救命士は、黒岩知事にとつて、フジテレビ時代に導入につながる報道を手がけたと自負する思い入れの強いもの。しかし、県医療課による

万人以上いるという。「あまりにもつたいない。何とか生かすべきだ」という知事の提案で募集が決まった。



支援を訴える発起人の小泉氏（右）と斎藤氏（8日）

